

第1学年 道徳 学習指導案

授業者 渡部 里佳子

1 主題名

「友達の気持ちを考えて」 [B-9]

2 ねらいと資料

ねらい	友達の立場にたって気持ちを考え、仲良く生活しようとする態度を養う。
資料	「いっしょにかえろう」(教育出版)

3 主題設定の理由

(ア) ねらいや指導内容についての考え方

本主題は、学習指導要領の内容 B-9「友達と仲良くし、助け合うこと。」を中心の道徳的価値としている。

学校生活において、友達の存在は欠かせない。それは、一緒に遊ぶ相手という意味だけではない。友達がいると安心できる、友達がいるから一緒に頑張れる。子どもたちにとって、友達とは大きな存在なのである。子どもたちには、友達と一緒に、様々なことを学んでいってほしい。友達を思いやり、そしてお互いに認め合って友達を大切にしてお過ごししてほしい。そんな友達関係を作ることが、子どもの居場所を作り、安心できる学校生活につながると考える。

しかし、この時期の児童は、まだ自分本位であり、「助けてほしい。」「優しくしてほしい。」等の気持ちが強い反面、相手の気持ちを考えられずに行動してしまうことがある。その結果、仲間に入れることや、優しく接することが、できない場合も見られる。

そこで、友達の気持ちをよく考えて行動し、互いに仲良くしようとする態度を養いたいと考え、この主題を設定した。

(イ) 子どもの実態と教師の願い

本学級の子どもたちは、素直で、活発に活動に取り組む子が多い。入学当初に一人で遊んでいた児童、同じ幼稚園や保育園の子とばかり遊んでいた児童も、徐々により多くの友達と遊べるようになってきた。

児童がどのような関わり方をしているのか、「友達」と意識しているのか、「友達」とどんな経験をしているのか、その状況について捉えるためにアンケートを行った。

- ①「どんな人を友達だと思いますか。」という問いに対しては、「いつもいっしょにあそぶひと」を友達だと思っている児童がほとんどであった。
- ②「友達に優しくされてうれしいと思ったことはありますか。」という問いに対しては、「仲間に入れてくれた」「困った時に声をかけてくれた」「褒めてくれた」「いっしょに遊んでくれた」「ものを貸してもらった」などで、友達に優しくされてうれしいと思った経験があると答えた児童がほとんどであった。
- ③「誘われても遊ばなかったことはありますか。」という問いに対しては、約半数の児童が「ある」と答えた。理由としては、「先に約束があった」「お家の都合」「習い事があった」などと、その子

なりの理由があるものの、相手のことは気にかけていないようである。

これらのことから、児童は、自分が仲間に入れてもらったり遊んでもらったりすると、とてもうれしいと感じるのにもかかわらず、自分の都合で相手の気持ちを十分に考えずに行動してしまう場合があると考えられる。

そこで、本時ではこの結果を踏まえて、自分のことだけでなく、相手の気持ちもよく考えて、互いに仲良くしようとする態度を育てるために、状況に応じたより望ましい言動について考えさせていきたい。

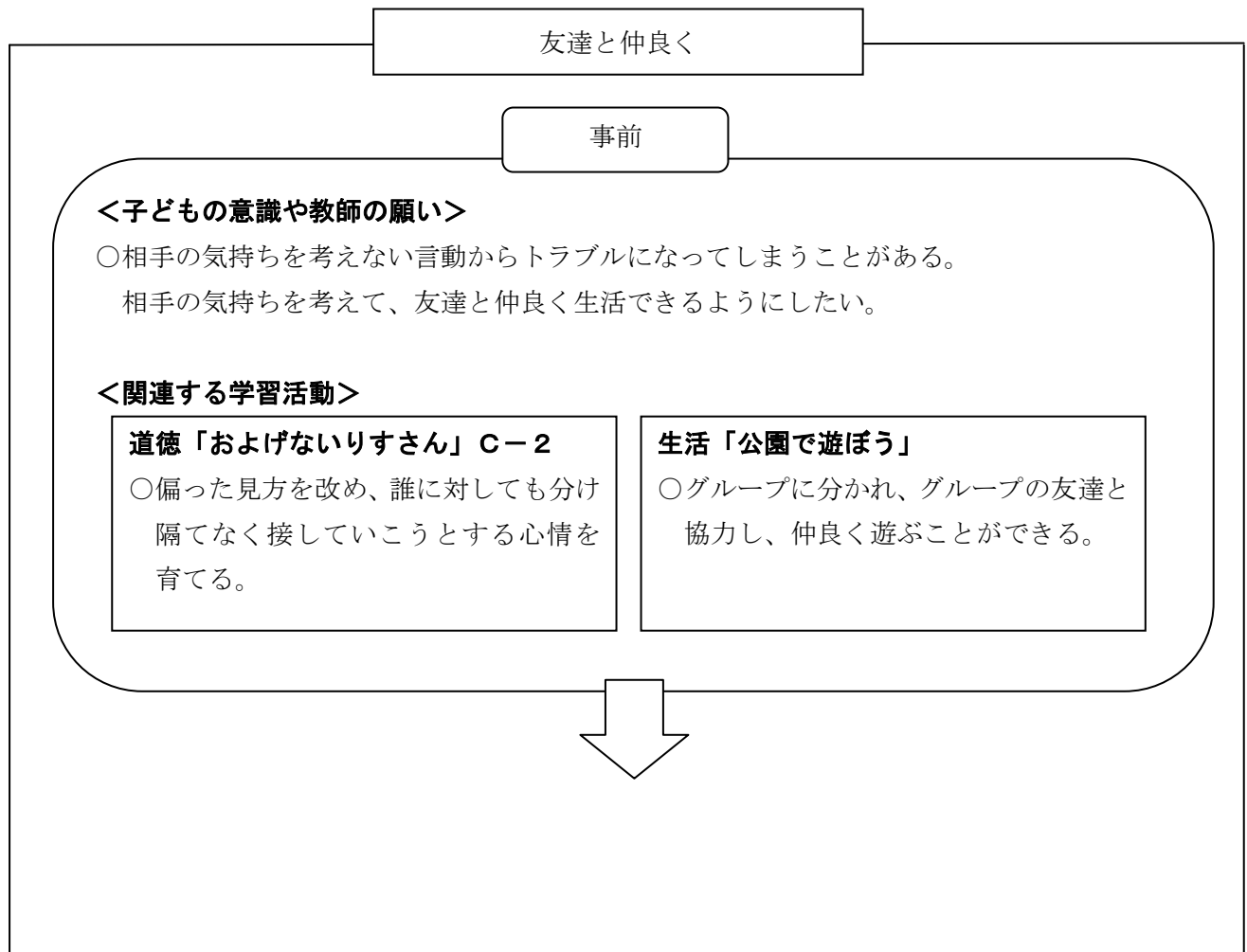
(ウ) 使用する資料の特質や意図及び子どもの実態とかかわらせた指導の方策

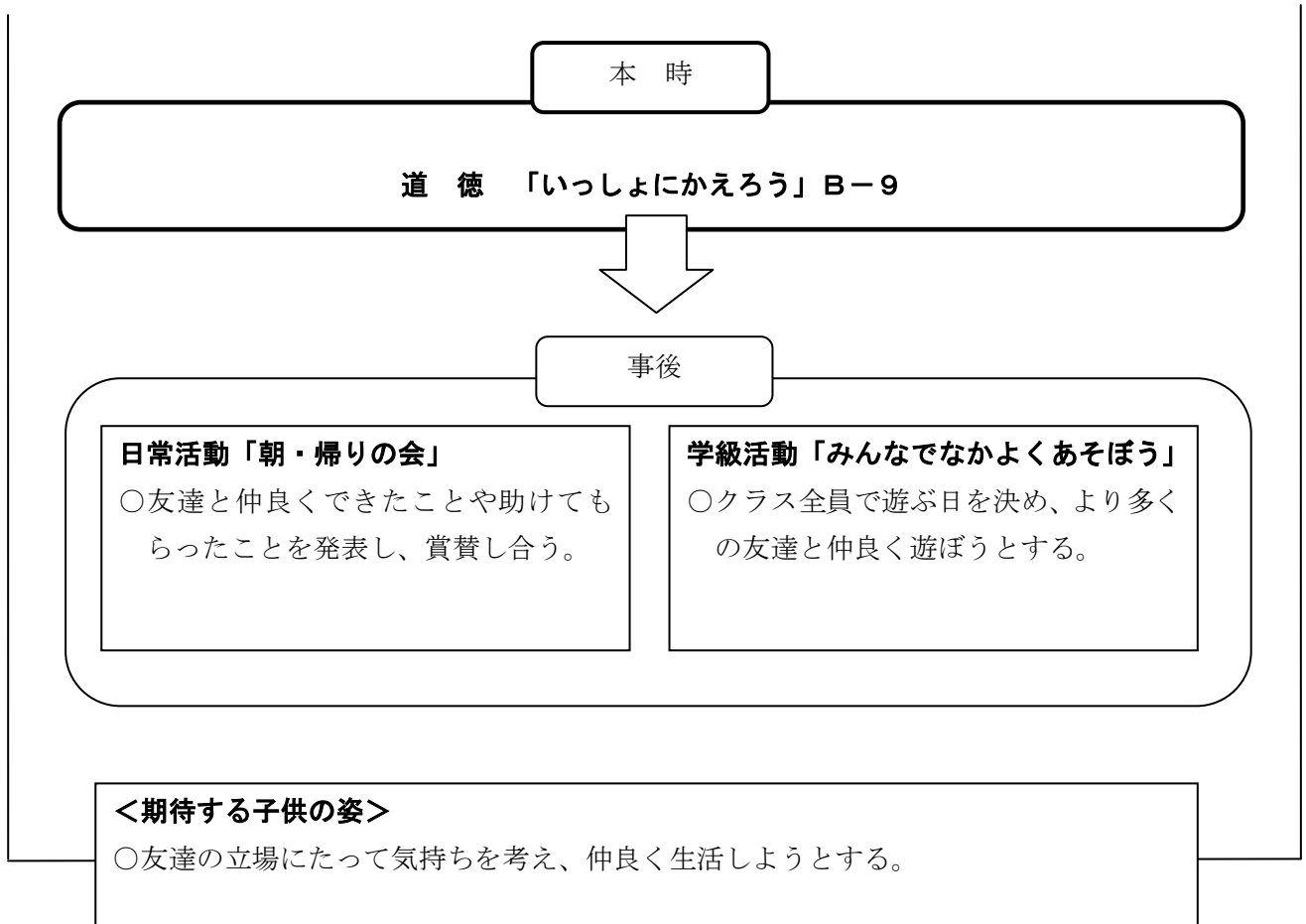
本資料は、日常によくある出来事を取り上げた資料である。よっちゃんがひとりできみしそうにしているのを見て、一緒に遊ぼうと声をかけたはるちゃん。ところが、よっちゃんと一緒に帰ろうと声をかけると、他の友達と帰るからと断られてしまう。

本時では、誘いを断った「よっちゃん」と、断られた「はるちゃん」両方の気持ちを考えるために、動作化を行う。役割を交代し、相手の立場に立つことによって、相手の気持ちを思いやる大切さに気付かせたい。

また、本資料は、「はるちゃんのこころは、いっしょにかえろうとっています。」というところで話が終わる。そこで、「はるちゃん」の気持ちが明るくなるにはどうすればよいか、その後の二人のかかわりについて、役割演技を通して考えさせる。問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどのように行動するかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための実践的な資質・能力を養うことができると考える。

4 指導構想（他の教育活動などとの関連）





5 研究の視点との関連

心豊かで道徳的実践力のある児童生徒の育成

○動作化・役割演技の活用

中心発問を投げかけ、すぐに意見を書きなさいと言っても難しい。それは、「登場人物になりきって、思いを持つこと」「持った思いを言葉で表現すること」の2点が難しいからである。そこで、自分の思いを持ち、それを表現する場を動作化と役割演技を用いて設定した。

役割演技は、児童に特定の役割を与えて即興的に演技をしたり、動きやせりふの真似をしたりすることで、価値の理解を深めることができると考えられる。また、動きや声、表情などで自分の考えを表現することもできる。

展開前段では、隣同士でペアを作り、動作化を行う。登場人物二人の動きやせりふを真似ることで登場人物の気持ちをより身近に考えることができ、思いを持つことができる。このような場を設定してから登場人物の心情を問うことで、「価値の理解を深め、思いを持つこと」「自分の思いを全体へ表現し、広めること」ができると考える。

また、展開後段では、どうすればはるちゃんがにこにこになるか問いかけ、二人のかかわりを考えて役割演技をさせる。「ごめんねと謝る」「3人で一緒に帰る」などの解決策はすぐに出てくるが、実践することは難しいのではないかと考えたからだ。

役割演技をさせることで、相手の気持ちを考えて行動できる実践的な資質・能力を養いたい。

6 本時の学習指導過程（展開）

過程	学習活動・主な発問	ねらいにせまる手立て	期待される子どもの姿と 予想される子どもの反応
導入 3分	1 友達がいてうれしいなど 思うことについて話し合 う。	○友達がいる楽しさや友達の温か さを想起させ、友達がいる喜びに 気づかせる。	・一緒に遊んでくれる。 ・泣いているときになぐさ めてくれた。
展開 前段 5分	2 資料「いっしょにかえ ろう」の前半の話を聞き、 登場人物の心情について話 し合う。 ○はるちゃんは、どんな気 持ちで「一緒に遊ぼう。」 と誘ったのでしょうか。 ○「一緒に遊ぼう。」と声を かけられた時、よっちゃん はどんな気持ちだったの でしょうか。	○どの児童にも話の内容がわかる ように、場面絵を用意する。 ○児童の様々な発言を取り上げな がら、はるちゃんは、よっちゃん の気持ちを考えて行動している ことに気づかせる。 ○誘ってもらって、うれしいよっち やんの気持ちに共感させる。	・よっちゃんが一人でさみ しそう。 ・一緒に遊びたいな。 ・声をかけてくれてうれし いな。 ・やさしいな。 ・ありがとう。
10分	3 資料「いっしょにかえろ う」の後半の話を聞き、ペ アで動作化を行う。 ○一緒に帰ろうと声をかけ、 断られる場面をやってみ て、二人の気持ちを考え てみましょう。	○動作化を通して、二人の気持ちを 考えるように助言する。 ○役割を交代して、違う立場で演じ させることで相手の立場に立っ て相手の気持ちを考えさせる。 ○全体では、演技をして感じたこと を話し合い、二人の心のすれ違い について理解が深まるようにす る。 ○児童の様々な発言を取り上げな がら、よっちゃんは、はるちゃん のことを考えずに軽い気持ちで 誘いを断ってしまったこともお さえる。	よっちゃん ・先に約束してるからな。 ・今日はゆきちゃんたちと 帰りたいな。 はるちゃん ・さみしいな。 ・この間一緒に遊んであげ たのに。
展開 後段 15分	4 どうすればはるちゃんが にこにこになるか考え、役 割演技を行う。	○資料は、はるちゃんの気持ちがも やもやしたまま話が終わってし まっていることから、この後よっ	○はるちゃんの気持ちや立 場を思いやり、よりよい 方法を考えている。

<p>終末 7分</p>	<p>◎どうすればはるちゃんがにこにこになるのかな。つづきをやってみましょう。</p> <p>5 今までの自分を振り返り、これから友達と仲良くするにはどうすればよいか考え、ワークシートに書く。</p> <p>○これから友達と仲良くするために、どうしていこうと思いますか。</p>	<p>ちゃんがどのように言えば、はるちゃんがにこにこ顔になるか考える。</p> <p>○演技を見ている人は、よっちゃんの表情や言葉に着目するように見る視点を与える。</p> <p>○役割演技では、演技をした児童と演技を見ていた児童から気づいたことを発表させ、いろいろな考えに気づいたり、自分の考えを深めたりできるようにする。</p> <p>○はるちゃんの気持ちを思いやる具体的な言動がとれた児童を賞賛する。</p> <p>○本時の学習から、特によっちゃんから何を学んだのか問いかける。</p> <p>○数名に発表させ、今後の意欲付けとする。</p>	<p>よっちゃん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんね。 ・やっぱりみんなで帰ろう。 ・また今度一緒に帰ろう。 <p>はるちゃん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あやまってくれたからよかった。 ・ほっとした。 ・一緒に帰れてうれしい。 <p>◇友達の気持ちを思いやって行動していこうと考えることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしいところをもって友達に話しかけるようにしたい。 ・友達の気持ちを考えて話すようにしたい。
------------------	---	--	---

板書計画

おもしろい場所

やさしい場所

よかったです。ほっとした。うれしい。

はるちゃんがかなしそう。ごめんね。

どうすればにこにこになるかな。

いっしょにかえろ。

さみしい。いっしょにあそんだのに。

ゆきちゃんたちとかえるから。

さきにかくそくしているからな。

さきにかくそくしているからな。

場面絵

いっしょにかえろう

はるちゃん よっちゃん

ひとりできみしそう。いっしょにあそびたいな。

さそってくれてうれしい。ありがとう。